

まごころだより 高松

2025年冬号
令和8年1月1日発行

発行所 NPO法人 長寿社会支援協会(まごころケアサービス 高松センター)

〒761-8052 高松市松並町802番地1 TEL 087-865-8001 FAX 087-865-8039 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp URL http://cho-jyu.info/

印刷所 株式会社成光社 〒760-0065 香川県高松市朝日町5-14-2 TEL/087-823-0222



キンカン



サザンカ



南天

今が一番若い

NPO法人長寿社会支援協会

会長 兼間 道子

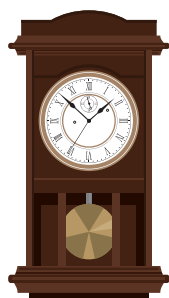
会員の皆様、新しい年を迎えお元気で過ごすごしでしょうか、お変わりなく安堵な日々でありますように祈っています。

年齢は、誰も同じように過不足なく重ねます。せっかく与えられた命を大切に用いたいと自分に課しますが、ともすると日常のなかで怠惰な時間を過ごすことがあります。計画の中の休息ならいいのですが、無駄な時間の多さに我ながら呆れます。

今年は、できるだけ、無駄という時間を少なくしたいと考えています。

後期高齢者にとって、平均寿命まで生かされたとしても残された「時間」は多くはありません。当たり前に出ていた事が、徐々に難しくなります。

「今が一番若い」ことを肝に命じて日々過ごしたいものです。今年こそ、日ごとに年齢を増すということを覚えて暮らそうと思います。ありきたりの「目標」ですが、今日より明日は年齢を増すことを忘れずに、毎日大切に、有意義な時間の過ごし方を実践したいと思っています。そのためには、強い意志が不可欠です。どこまでやれるかわかりませんが、今年こそ會員みなさまの願いに重ねて納得のいく一年にしたいと思っています。



● 目次 ●

● 今が一番若い	1
● 各分会だより	2
居宅介護支援	2
訪問介護	2
まごころサービス	3
有料老人ホーム あかりの里	3

● 脳トレクイズ	3
● 研修部	4
● 会員だより	4
● 編集後記	4

各部会だより

居宅介護支援

明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。

さて、ケアマネージャーとして対応が困難なケースがいくつかある。

その1、ご本人と同居しているご家族の意見が異なり、ご本人は自宅で過ごしたいというが、ご家族が施設への入所を希望するケースだ。



住み慣れた自宅での生活は、気が向いたときに外出でき、食べたいものが食べられるなど多くのご利用者が希望している。しかし、外出の際の付き添いや、食事の世話など仕事をもっていて昼間留守がちのご家族にとって大きな負担が伴い、ご利用

者の認知機能が衰えると夜間にゴソゴソ動き回り、家族が眠れなくなるなど日常生活に支障がではじめる。このような場合、最後には施設入所を選択する例が多いのが現状だ。



その2、ご本人の体調が悪化し、入院や手術等が必要となった際、別居中の親族などから「ケアマネージャーに任せるので良いようにやってくれ」と相談を放棄される場合だ。

あるご利用者の場合、医師から「手術するか、しないか誰が決めるか」と問われ、ご本人の成年後見人にも相談したが、彼らも医療についての判断には介入出来ないという。本人がしっかりとっている時に延命や終末のあり方を決めていただいております。

というが、我々が関わる時には、すでにそのような判断を本人が出来ない状況である場合、結果として医療関係者の提案に沿って進めることになる。

その3、自宅での日常生活が困難で施設入所しか選択肢がない、しかし入所費用が十分支払えない場合だ。

いちばんの困難事例は、生活保護の対象とならない少額年金生活者だ。このようなケースでは、可能な限り自力でできるゴミ出しや、掃除などを行いながら、年金の範囲内でデイサービスや訪問介護、福祉用具の利用など在宅サービスを利用するとともに、地域の人の力、まごころサービス等が協力して、住み慣れた自宅での生活を続けている。今後、入所条件が整えば利用料の負担が軽い特別養護老人ホームへの入所を考えている。

その4、認知機能が衰えているお一人暮らしの方で契約や約束事が困難な方へのサービス提供だ。

「毎週決まった曜日に掃除に伺います」との約束で訪問介護計画をたて、ヘルパーさんが訪問するも毎回、電話は出ないし鍵は締まっています。窓をたたいてやっと開けてもらえても「頼んだ覚えはない」というケースがある。

訪問介護

「ではそうします」と中止するのは簡単だが、おひとり暮らしで認知症があり金銭管理が不十分で、安否確認や食事管理、服薬管理が必要なこのような方の後々のことを考える一番の困難ケースだ。結局は、粘り強くご本人に話を聞き、なにが必要かを見極めながら行政や施設にも協力をお願いしつつ解決の糸口を探っていくしか方法がない状況だ。

今年も一年、穏やかで平安な年になりますように祈るばかりです。

ご自宅でお一人暮らしのKさん、85歳の女性です。現在ご利用されている介護サービスは、半日のデイサービスを週3回とわたしどもの訪問介護サービスを「生活援助」として毎日利用されています。



一日二回、朝昼、又は朝夕、ヘルパーが交代して訪問させていただいています。朝は朝食づくりとデイサービスへ行く準備の援助とお見送り、昼の訪問時には昼食と夕食を合わせて作り、夕食後の薬も併せてセットしておきます。翌朝7時の訪問時に前日の夕食の召し上がり具合や薬のチェックをしますが、夕食や薬が時々残っていることがあります。

着替えなどの動作は自分でできますが、何を着るかの声掛けなどが必要です。洗濯も以前は自分でできていましたが、今はスイッチを入れて、洗剤を入れてと一つひとつの声掛けが必要になりました。

エアコンの操作も時々分からなくなりませんが、徘徊もなく穏やかで、お好きなコーヒーはご自分で作っては飲まれています。ご親族の県外在住の娘さんからは「いつまで自宅で生活できるでしょう。施設入所を考えるのは本人がどんな状態になった時でしょう」とのご相談を受けていますが、いまのところ排泄などではできていますし、援助をうけながら身の回りのことができる状態なので、しばらくはご自宅での生活を続けることとしています。本年もお元気でご自分らしい生活をお送り頂けるように祈るばかりです。

まごころサービス

まごころの移送サービスを利用して、週2回リハビリに行かれています。利用者様から「家にキンカンの実がなっているけど私は食べないから皆様どうぞ」とおっしゃって沢山のキンカンを下さいました。早速ジャムにして事務所での昼食時にヨーグルトに入れて頂いています。ありがとうございます。



有料老人ホーム あかりの里

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

私は昨年9月から「あかりの里」にお勤めするようになりました。入居者様たちが、和気あいあいと過ごされている様子を見させていただきながら、私も他のスタッフさんのご指導・ご協力を得て、この雰囲気での生活を守って行きたいと思いました。

昨年11月26日に施設内で定期的に行っている火災の避難訓練を行いました。消火器の使い方、入居者への対応の仕方、屋外への避難誘導の手順を学びました。この冬も寒さが厳しくなるようです。火の元や災害にも注意しつつ、入居者お一人お一人にも、自分にも体力と体調に気を配りながら、今年も穏やかな日常が続いていければと願っています。



脳トレ

次の四角の中の文字で日本の長い川トップ10を作ってください。

て	あ	が	わ	あ
ん	ぶ	そ	わ	あ
り	く	きの	の	し
ゆ	ま	の	わ	み
う	ね	み	が	わ
が	が	た	わ	て
と	な	か	が	が
わ	が	が	わ	が
し	き	が	お	り
わ	わ	が	が	も
				か

と○○○ き○○○
し○○○ て○○○
も○○○ あ○○○
き○○○
い○○○
あ○○○
て○○○



研修部

虐待防止についてのオンライン研修

内容としては、

- ・虐待はなぜおこるか。
- ・虐待防止は個人ではなく、組織、チームとして取り組む。
- ・ヒヤリハットを共有する。
- ・怒りをコントロールすることを学ぶ。
- ・虐待防止委員会の担当者を置き、委員会の開催、研修の定期的開催、研修の記録を残す。
- ・発見した場合は通報する。(通報することによって虐待の早期発見ができる)
- ・3つのロック(スピーチ、ドラッグ、フィジカル)
- ・5つの虐待(身体的、性的、心理的、経済的、放置)

以上のことがらについての研修でした。そして、研修を成果につなげるには、環境の改善を行い、組織、チームとして虐待防止に取り組むこと、との内容でした。



会員だより

旅衣

小西 路

温泉の湯けむりや家屋が少し離れただけのところにあるという安心感で、豊かに歩くことのできた登山靴。山小屋に一泊する。その昔、しもやけに苦しんだことを思い出す。

病には温泉とも安けしと宿泊ガイド手に取りし日や

雪が浅かった。しかしそれ程浅くというのでもなかった。笹にかかるその下にある雪道を、雪音をかもしながら踏みしめてゆく。大丈夫そうよこれだったら。

前と後を入れ替わりながら行く雪山登山。

こんくらべ
あなたが前で
反対は
私がうしろ
あなたがうしろ



クイズの答え

とねがわ きそがわ しなのがわ
てしおがわ もがみがわ あがのがわ
きたかみがわ いしかりがわ あぶくまがわ
てんりゅうがわ



編集後記

新年あけましておめでとうござい
ます。

良いお年をお迎えの事と存じます。
今年もどうぞよろしくお付き合い
くださいませ。

昨年5月だったか7月頃だったか
記憶があいまいになっております
が、秋田県を中心に生活圏へのくま
の出没が報じられていました。

まさかり担いで金太郎
くまにまたがりお馬のけいこ
ハッシドウドウ ハイドウド
ハッシドウドウ ハイドウド
の童謡を子供の頃によく耳にしてい
ました。

香川県に住み、足利山のくまやと
べ動物園の白熊ピースしか想像でき
ない私にとって現実味の薄い出来事
でしたが、大きな驚きでした。

くまの生活圏への出没の背景には
諸説あるものの、高齢化、過疎化に
よる人口減少、空き家の増加などま
さに我々が今直面している問題で、
自然界から警告を受けているように
思えます。自然界と人間界が程よく
調和して生きることができる日々を
祈らずにはいられないお正月です。

